

■聞き取り地区

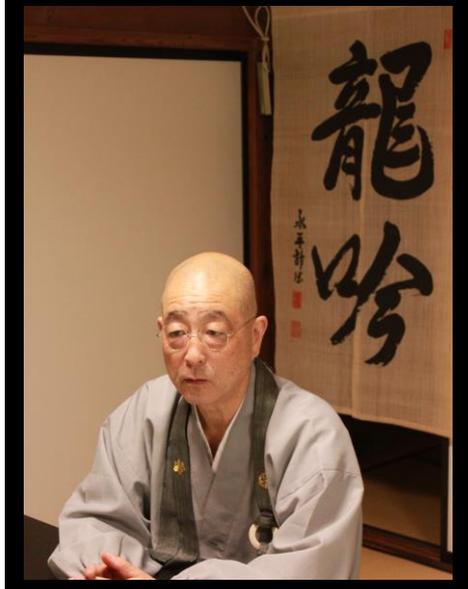
山梨地区矢坪

■聞き取り場所

曹洞宗 竜石山永昌院

■聞き取り対象

永昌院住職 堀内正樹さん



質問① ご自身の歴史

・ご自身の価値観や仕事観の形成に大きく影響したと考えられる、人生中の濃い期間や転機について教えてください。

昭和26年生まれ。生まれた場所はここ永昌院です。この時代は戦争直後の荒廃がそのまま残っている時代であり、お寺の境内などのちよつとでも平らな場所に畑をつくるなどしながら、矢坪地区住民が力を合わせ生きてきた時代でした。

出身学校は山梨小学校で、往き40分と帰り60分をかけた徒歩で登校していました。毎日道すがら野遊びしながら帰宅していたため、それ以上時間がかかっていたと思います。中学校は小学校隣接の山梨中学校出身で、自転車で通っていました。矢坪まで自転車で登ってくるのは大変なので、自転車は山根地区に置

いての登校です。その後、日川高校に進学し、続けて東京の駒澤大学に進学し東洋史を専攻しました。今考えると、東洋史も興味深かったのですが、もつと日本史を突っ込んで勉強してみたかったとも思っています。

大学卒業後はまず、福井県にある曹洞宗大本山である永平寺にて仏教修行を行っておりましたが、山根にある宗禅寺の住職が戦後不在であったため、山梨に戻り住職を務めることとなりました。宗禅寺住職は昭和49年〜平成14年の28年間務めました。平成9年からは永昌院の住職も務めることとなったため、一時的に兼職していたことになりました。

上記のとおり、私の人生を振り返ると宗禅寺住職としての時期が長く、この期間に出会った人達や起こった出来事が、今の私の価値観や人生観を形作っていると考えています。



住職に成り立ての頃、私の年齢はまだ20代前半でした。住職として何をやるべきか・どうあるべきか、まだまだ分からない事だらけだったのです。その中において、檀家の長老を中心とした方々からは、人生の練達者として様々な教えを頂きました。その際は、決して私に直言し叱りつけるようなやり方をせず、自分達の誤りであるかのように話をし、私に間接的に問題を伝えるようなやり方であったのが常でした。

この中で私は、だんだんと寺院を荒廃した地域コミュニティの中心地として機能させていく事ができるようになったのです。中でも一番記憶に残っているのは、10年間に渡り継続的に行ったお彼岸の早朝座禅会です。座禅会には、年齢や農業やサラリーマンなど職業を問わず様々な地域住民が参加してくれましたが、特に子供たちが参加してくれたのが非常に良いことでした。早朝5時からの座禅会に子供が自主的に参加すること自体が褒めるところなのに、中には毎日来てくれる子すらいたのです。

ここで重要なのは、「来てくれた子供はちゃんと褒める」、「来なかった子供を決して叱らない」、「座禅会のような非日常に

身を置くこと自体が子供に非常に意味がある」ということです。3番目については、宗教的な観点から言っているのではなく、非日常に身を置き静かに時間を過ごす体験が、自分の中に自分

### 『曹洞宗 龍石山 永昌院』の紹介 (HP より)

武田信玄の曾祖父信昌を開基とし、永正元年（1504）年に開創されました。

境内には史蹟である信昌の墓があるほか、県指定文化財の「永昌院銅鍾」や「木造十一面観音菩薩立像」など貴重な文化財が数多く残されています。境内から甲府盆地を見渡せる絶好のロケーションの由緒あるお寺です。



を制御するもう一人の自分を形成する契機になると考えているからです。やって良いことと悪いことをきちんと判断し、自分を制することができれば、より良い地域社会の形成や社会生活を過ごすことができると考えています。

## 質問② 現在のライフスタイル

### ■季節単位

季節ごとに変化する生活ぶりを簡潔に教えて下さい。

#### ・春

梅が咲く。春になったから梅が咲くのではない。  
梅が咲くことを全身で感じ取り、わが心に春を起こして行くのである。

次々に開く花々が、春を心に呼び起こして行く。彼岸を迎え、寺の行事や法要も増えていく。忙しさの中に春を実感する。

#### ・夏

除草に追われる季節の到来。  
盆の前までは草との戦い。夢中に終る多忙の盆。盆が過ぎてみれば今年の夏も草との戦いには敗れそうだ。

花は愛惜に散り、草は棄嫌に生ふる。戦おうなどと思っていることが間違いなのだ、と気がつけば、緑陰の涼風が心の平常をプレゼントしてくれる。

#### ・秋

果樹農業地域の山梨の夏は行事が少なめ、その分秋はすべての行事、法要、研修が目白押しとなる。

植物の成長が止まり終息に向かう美しさ、紅葉の季節である。自然の移り変わりを心静かに受け入れることが出来れば枯葉掃除の労苦など全く感じない。

ああ、疲れた、などとは言うが。

#### ・冬

寺の年末年始は忙しい。  
古来よりの行事を大切に守り伝えたい。

年齢を重ねる毎に寒さが身にしみるが、行く年をしめくくり、来る年を心新たに迎えることで、命の大切さを確認できる貴重な時期であることを実感するのである。

週単位の生活ぶりを記載頂いています。

今回は、堀内さんの夏季期間中の過ごし方を記載して頂きました。

どの季節を想定した生活ぶり(ライフスタイル)を、  
書いているのかを記述してください。

季節/月	月曜日 曇雨	火曜日 曇	水曜日 晴	木曜日 晴	金曜日 曇	土曜日 曇	日曜日 晴
0:00							
5:00	起床・坐禅	起床	起床	起床・朝課	起床・坐禅	起床	起床 坐禅
6:00	朝課	除草作業	除草作業	朝課	朝課	植木消毒	朝課
7:00	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
8:00	↑車で北杜市へ	↑車で甲府へ	↑車で甲府へ	↑車で甲府へ	↑車で甲府へ	↑車で甲府へ	↑車で甲府へ
10:00	(寺院法要)	(寺院会議)	寺院研修会	宗派事務所	↑来客3名 (相談)	↑事務 (原稿等)	↑法事10名
12:00	↓昼食	↓昼食	↓昼食	↓昼食	↓昼食	↓昼食	↓昼食
13:00	↑甲府宗派事務所 (事務・会議)	↑帰寺			↑事務 (原稿等)	↑来客2名 (相談)	↑(車で移動)
15:00		↑事務 (原稿等)					↑婦人部来山 (甘茶作り)
16:00	↓帰寺		↓帰寺	↓帰寺	↓帰寺	↓帰寺	
18:00	↓夕食	↓夕食	↓夕食	↓夕食	↓夕食	↓夕食	↓夕食
19:00	↑来客僧侶4名	↑事務					↑社会活動
20:00	(布教研修)						(会議)
21:00	↓就寝	↓就寝	↓就寝	↓就寝	↓就寝	↓就寝	↓就寝
22:00							

1 週間単位



### 質問③ よく使う仕事道具

・生業(なりわい)が人の人生を形作るとの観点から、仕事道具は人の生きざまを具現するものと考えています。一点ものでも消耗品でも構いませんので、大切な仕事道具を一つ見せてください。

仕事道具という質問は私にとっては難しい質問です。私にとっては本でしょうか。本はたくさんありますけれども、あえて一つ挙げるとするならば、『正法眼蔵隋聞記に学ぶ』という本ですね。

「正法眼蔵隋聞記」というのは、曹洞宗開祖道元禅師の弟子で永平寺2世である孤雲懐奘(こうんえじょう)が記した曹洞禅の語録書で、懐奘が約20年間

にわたり師・道元につき従っていた時のメモがもとになっており、道元が弟子たちに説いた言葉や道元との問答を克明に筆記したものです。

どういう考え方で生きていけばよいのか自分の問いかけに答えてくれるもの、自分の生き方の指針になっていますね。このようなものは住職だからというわけではなく、社会の中の一員として生きている誰しも持っていると思うています。それが私にとっては『正法眼蔵隋聞記』だったということですね。

この本に書いてある事をひとつ紹介します。

「古人いわく、霧の中を行けば、覚えざるに衣湿る」  
(先が見えないような濃い霧の





矢坪神楽の様子



中を歩いているといつの間にか衣服が湿っているように、人は身を置く環境によって無意識のうちには受ける影響がある。) よき人に近づけば良い人になれるということで、これはすべてに通じることですね。

例えば、自分の子供を育てる時も、霧の中を歩かせていくのが良い。「こういう人になれ」といきなり水をかけたりするから変なことになる。環境を整えて、その中を歩ませることが大切です。子供がしゃべり始める前から親が神様に手を合わせる背中を見せておけば、感謝するという意味や気持ち伝わるわけです。だいたい中学生くらいになると子供は理屈を言いますよね。それで、ちゃんと手を合わせて感謝しろなんて口で言ったら反発しますよね。もうその時は言

わなくていいから、それまでにみせておく事が大切です。そして反発する時期には親はだまっていればいい。それを乗り越えた時に子供が分かればいいんです。



質問④ ご自身がお住みの地区について思うところ

・地区の自然環境、歴史、風俗(祭りなど伝統的なもの)などの特徴をあなたの視点で紹介してください。

地区にいるとその地区の不便な部分ばかりを先に感じ取ってしまう傾向があるが、決してそれだけではないと考えます。確かに矢坪は、山際であり急傾斜の道路も多いことから、ある時代までは雪はもちろん強い雨が降るだけで自動車が乗り入れできない事態に陥ったりしました。

しかし、現在では通勤・通学の不便も減り、地区内の空き家は少なく、空き家ができれば借り手や買い手がつくような地区になっています。また、隔絶している立地ゆえに地区内で力を合わせる必要があったことから、簡易水道づくりや境内の電柱撤去など地区内の出来事はちゃんと協同し実施してきました。そのため、現在に至っても3月には武田信昌公の彼岸に関わる儀式が行われ、小正月には矢坪神樂が行われているのです。

質問⑤ 外に向けた地区の情報発信と地区内への情報伝達

・他地区に紹介したいご自身の地区の良いところを教えてください。

・ご自身の地区への意見などを教えてください。

地区への情報伝達としましては、例えば「交通環境が悪い」という問題へ、「新しい道路を作る」という対策を安易に持ち出さないでも良いのではなからうか、などと考えたりします。

矢坪という地区や永昌院は、交通環境が五百年前と大差ないことで五百年前の感覚を呼び起こさせる側面があり、境内から眺める山梨市街の風景は五百年前の甲斐武田氏当主達が眺めたものと同じであるわけです。地区の方には、そのような地区の変わらない価値を大切にすることを変わらずに持っていただければ嬉しいのです。

また、地区外の方には、時には往年の武士たちと同じような物思いに耽るために矢坪を訪れていただければ嬉しいです。

なお、これまでに沢山の地区外の方が、歴史や文化財の勉強会やフットパスで、永昌院を訪問しています。「歩け歩け」運動で遠くから来て下さる方もいれ



ば、日川地区や石森地区などから歩きで来て下さる方もいます。その際に文化財の開帳や説明なども随時行い、地区の魅力発信を行っております。

一つ残念なのは、永昌院に限らずではありますが、市内の歴史的建造物や文化財への誘導があまり上手くできていないことです。永昌院は、山際にあることから、道がわかりにくい面があります。それを解決するためには幾つかの手製看板を設置させて貰っていますが、どうしても分かり難いものとなっています。何か良い方策はないものかと常日頃から考えております。



## 質問⑥ 他地区について

・山梨市の地区で、ご自身が行ったことないが知りたい／行ってみたい地区があれば教えてください。

三富地区をもっと知りたいと考えています。勿論、全く知らない訳ではありませんが、私が見ていない深いものがまだ三富にはあるのではないかと、などと考えたりします。

矢坪地区を出発し三富を経て埼玉県秩父につながる道は、秩父往還道と呼ばれますが、この道は僧侶が往来する道でもありました。特に戦国時代には僧侶が通信使となり頻繁な往来をしていましたし、川浦には関所跡があつたりします。また、秩父には永昌院の末寺がありますし、幕末時点の永昌院住職は三富出身であつたのです。

このように、歴史的に関係がある三富地区についてより多くのことを知ること、矢坪や山梨市を大きな観点から知ることができるのではと考えております。

